

会 議 結 果

会議名	令和元年度第3回 西尾市立図書館協議会
日 時	令和元年12月18日（水）午後4時～4時30分
場 所	西尾市立吉良図書館 視聴覚会議室
出席者	安井会長、尾崎副会長、中村委員、浅井委員、青山委員、鳥山委員、林委員、大須賀委員
市係等出席者	内藤部次長、原田図書館長、生田主任主査、黒野主任主査
傍聴者	無し
<p>協議会の中で出されたことは以下のとおり。</p> <p>1 あいさつ 安井会長</p> <p>2 議題 (1) 読書通帳について 黒野主任主査より、来年度導入予定の読書通帳について説明。 西尾市子ども読書活動推進計画の中で子どもの読書活動を推進しており、その推進施策として令和2年度に読書通帳の導入を予定している。これは、今年度のワクワク西尾創生コンテストの職員提案で最優秀賞を取った事業である。 本を読むことで知識が蓄積される、その蓄積の状況（貸出しの履歴）を、銀行の預金通帳のように通帳に記帳できるようにするもの。 この通帳は、市内在住の中学生以下全員に無料配布する予定で、これは西尾信用金庫からの寄贈という話で進んでいる。それ以外の人には有料配布をする予定。来年度10月のにしお本まつりでお披露目する予定である。この通帳を使うには、図書館の貸出カードと連携させる必要があるため、小中学生には、学校を通じて貸出カードを作ってもらふ必要があるということを伝える。 通帳のデザイン、仕様等については、西尾信用金庫とも連携を取りながら考えていく予定である。</p> <p>質問：ブックスタート会場で申し込み受けとあるが、実際にその場で配布するわけではなく、申し込みを受付けるだけなのか。また、それは有料なのか。 →その場での配布は難しい。申し込みを受け、図書館に来ていただければお渡しできる、という形になるかと思う。0歳から中学生までは無料となる。</p> <p>質問：毎年、小学校入学時に無料で継続して配布していくということか。 →はい。新一年生には、入学式の時の配布物のお道具箱に通帳を入れるということを考えている。</p> <p>意見：入学式の時のお道具箱はごちゃごちゃで、保護者も名前を書くものもたくさんありパニック状態になっている。せつかくいい取り組みするのだから、親御さんにPRできる機会に渡してほしい。例えば、PTA総会などがいいのでは。入学式はふさわしくないとと思う。</p> <p>意見：入学説明会や就学時健診の時に親御さんに話をする機会があるので、そういった時間を少しもらって、担当なり教務主任が説明をして渡すというのがよいと思う。そうすればより浸透するのではないかと思う。お道具箱に入っているだけでは何かかわからないと思う。</p> <p>質問：乳幼児の時に一冊作り、一年生の時にも新たにいただけるということか。すで</p>	

に持っている方もいるということになるかと思う。何冊もダブって発行されることになるのでは。

→そこが今課題である。すでに使っている人の場合、入学時にもらったものは、今のものを使い終わったら使ってくださいという形がいいのかと思っている。

質問：イメージとして、病院のお薬手帳のようなものだね。

→そうですね。お薬手帳はシールを貼るというものだが、それが銀行のATMに通帳を入れると印字されるものと思っていたらよい。

3 報告事項

(1) 一色学びの館の運営について

原田館長より、一色学びの館の運営について報告。

一色学びの館の運営は、指定管理者制度でエリアプラン西尾、実質は㈱エムアイシーグループが運営している。PFI事業については事業の実施状況について定期的にモニタリングしていくことが定められており、毎月のモニタリング、四半期ごとのモニタリングとある。年度末にはPFI事業全体のモニタリングがあり、きちんと運営がされているかということの評価していく。

今回は、今年度の第2四半期のモニタリング結果ということで、施設運営については、備品の管理について未解決の部分がまだあるため△としてある。施設管理については、書類の保管について事務室と業務場所が離れており、個人情報を含む書類が色々あるため、それについてもう少し厳しい管理が必要ではということで△にしてある。サービス・広報、事業展開については、イベントがたくさんありPRが追いついていかないということが発生している。その点を△にした。財務状況については、適正な経理処理の部分で経費の按分等が分かりづらいということもあり、それを明確にわかるような管理方法を取ってもらえるとこちらも確認しやすいということで△にしてある。

運営は全体的に見て、うまくいっているように感じている。

(2) 蔵書点検結果について

生田主任主査より、今年度の蔵書点検結果について報告。

9月に1週間ほど休館をし、市内の図書館と配本所の蔵書の点検をした結果を報告する。令和元年度不明という欄の一番下の588という数字が、今年度点検をしたときに本来は棚にあるべきだが、実際は無かったという本の全館合せた冊数である。平成30年度から不明という欄の数字は、昨年度の点検の時に不明で、今年度もやはり無かった数字が405冊。平成29年度から不明という数字は、3年続けて無かった本が386冊。西尾市の図書館では、3年続けて不明だった本はもう出てこないと判断し除籍をすることとしている。今年度は386冊を除籍した。一年の間に不明だった本も、貸出しが漏れていたりセルフ貸出機できちんと処理ができていなかったりで外に出てしまった本、また、点検の際に小さい本や薄い本も注意をして落とさないように処理をしているけれど、点検漏れになってしまった本もあるため、100冊から200冊くらいは発見される。

今年度不明になった本の傾向としては、文学の本が多く、その中でも俳句の本や文庫本、新書本が目立っていた。これ以外では、ほぼ毎年同じだが、医学関係や家庭生活、料理や編み物の本などである。

内藤部次長 御礼の言葉

会長により西尾市図書館協議会を閉会した。